

現在、管理棟建築工事や基盤造成工事が行われ、工事も本格化しています。管理棟の建築工事は、杭工事が完了し、基礎工事に着手しました。



H30.3.5整備状況



再生に向けた地域の動き

第4回市民協働ワークショップを開催

市民協働ワークショップは、岩手県と陸前高田市が事務局となり、復興祈念公園をより良い公園とするための話し合いの場として開催しているものです。

平成29年11月22日に、第4回目となる市民協働ワークショップを開催しました。ワークショップでは、「グループについて」と「すぐ始められる取り組み」をテーマに、参加者27名が、4班に分かれ意見交換を行いました。

◇参加者からだされた主な意見

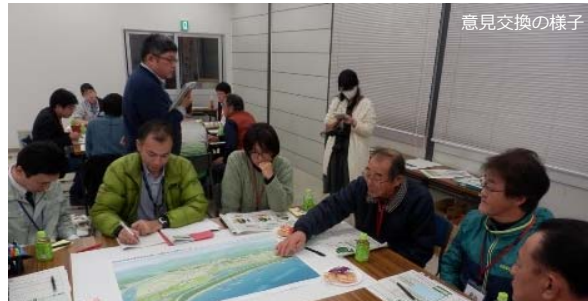
「グループについて」

- ・収益と楽しみのある活動をしたい。

「すぐ始められる取組み（グループの役割について）」

- ・震災の記憶の継承と、体験型の防災教育を行うグループが必要。

など多くの意見が出され、公園への関心の高さがうかがえました。



桜ライン311の活動

桜ライン311は、岩手県陸前高田市内約170kmにわたる津波到達ラインに、桜を10mおきに17,000本植樹をする活動をしています。この「桜が伝えるハザードマップ」を作ることで、後世の人々に津波の恐れがあるときにはその桜より内陸に避難するよう伝承していくものです。

これまで、約4,500人のボランティアの参加により、陸前高田市内に268カ所・1,324本の植樹を行っています。

震災の教訓伝承は、高田松原津波復興祈念公園の基本理念の一つであり、この活動は、昨年、国土交通省が社会資本と関わりをもつ地域づくりの優れた取組を選定する「手づくり郷土賞」の一般部門グランプリを受賞しました。

